

深き淵より、主を呼ぶ

2021年6月6日

詩篇 130篇

序：聖餐式（悔い改め、感謝、献身）

聖化のための恵みの手段（新生の信仰のしるし＝洗礼、バプテスマ）

悔い改めの詩篇 6 32 51 130 143

パウロ、アウグスティヌス、ルター（劇的回心）

I. 都上りの歌

うきうき、わくわくの観光旅行ではない

神に対する、たましいの飢え渇きから発したもの

II. 神への叫び 1～2節

呼び求める（信仰）

聞いてください（神は耳をつけた方、ゆえに聞いてくださる）

耳を傾けてください 全知全能の神のみ

深い淵から = 死者が行くところ、よみ、光なき暗黒、神から隔絶

cf. 海中に投げ込まれたヨナ

絶望的な場所、状態（不義・罪咎の深みから）

遠く ⇒ 近く

III. 私の不義と神の赦し 3～4節

(1)神は義 ⇒ 審判者

神が聞いて下さらないのは、私たちの咎・罪のゆえ

私の罪・咎・不義（内側） > この世・敵・境遇（外側）

さばくのは当然

誰も免れることはない ⇒ 恐れ

(2)神は愛 ⇒ 救い主 赦し

罪・咎・不義を赦す権威者

ゆるされるのは当然ではない 神の恵み・慈愛

御子イエス・キリストの犠牲（なだめの供え物）によるゆるし

ただではない（代償・払えない私たちに代わって）

赦しは、罪を悔い改め、告白するなら、いつでも

どこでも

どのようなことでも

だれにでも

与えられる

cf. 十字架上の強盗（即座に、確約 - パラダイス）

⇒ 恐れ、畏れ

自分の罪を恐れ、ゆるしてくださる神を畏れた

IV. 私は待ち望む 5～6 節

- (1)主を
主のみことばを

自分からできるのは、罪の淵の深さ・暗さを自覚し、神に告白し
ゆるしてくださる主を待つ、待ち望むこと

- (2)夜回りが夜明けを待つのにまさって
神殿の警備（徹夜の労苦）
朝になれば、神を礼拝する喜び（祭司はささげもの、人々は感謝と祈り）

V. 救いの宣言

- (1)イスラエルよ
義とされた人たち
神に知られ、神を知る者たち
神を恐れ、畏れる人たち
自分の罪を憎み、ゆるしてくださる神に信頼する人たち
神を待ち望む人たち

- (2)主には
恵みある
豊かな贖いある

主はイスラエルをすべての不義から贖い出される

イザヤ 1・18

……主は言われる——— たとえ、あなたの罪が緋のように赤くても、雪の
ように白くなる。たとえ、紅のように赤くても、羊の毛のようになる

VI. 吟味すること

- (1)私は、神に対して二つの健全なおそれ（恐れ、畏れ）を持っているか？
自分の深く底無しの不義
それにもかかわらず、ご自身が犠牲を払って贖ってくださること
- (2)私は、神が罪をおさばきになることを恐れると同時に、神が私の罪をゆるし、
救ってくださる神の愛を受け入れ、感謝しているか？
- (3)救いは二重（狭義と広義）、悔い改めとゆるしはどちらにもある
回心（新生）／ 聖化を経て栄化（救いの完成）

ヨハネ I 1・9